

泉州ゆかりコレクション特別講演会

泉州ゆかりコレクション第14弾

岸和田への里帰り紀行文「岸和田紀行」を読む

～近江膳所藩の重臣に嫁いだ「逸」が「破鏡尼」とよばれるまでの顛末～

日	時	令和8年2月28日(土) 午後2時～4時
場	所	岸和田市立図書館 3階自習室
対	象	中学生以上
講	師	万代 博史氏(郷土史研究家)
定	員	40名(申込先着順)
申	込	2月14日(土) 午前10時より岸和田市立図書館(本館)にて受付開始 直接または電話(072-422-2142)、QRコードからお申込みください。



三十石船

『岸和田紀行』は、菅沼逸が岸和田へ帰郷した際の旅日記です。

この旅の日々を簡潔でやさしさのある文章で表現した逸の本文と和歌13首、夫の定常の添えた俳句10句で構成されています。岸和田の親しい地名・名跡が数多く記されています。

里帰りの4年後、故あって夫は自刃、息子は切腹、家は断絶してしまいます。逸は髪を降ろして破鏡尼と名前を変えて堺に隠棲します。

これら一連の顛末や松尾芭蕉とのかかわりなども紹介します。



菅沼 逸(破鏡尼)

菅沼 逸(破鏡尼) ～江戸中期～後期～

近世の女流作家のひとり。

岸和田藩士の娘で膳所藩(滋賀県大津市)の重臣に嫁ぎます。

夫の菅沼定常は膳所藩の藩士であり、松尾芭蕉の門人で場指堂曲翠^{ばしどう}といい、蕉門十哲^{しょうもんじゅうてつ}の一人にかぞえられています。

参考 『岸和田発見③ 岸和田ゆかりの人』

岸和田市子ども向け郷土資料編集委員会～岸和田ゆかりの人編～／編集

泉州ゆかりコレクション「描かれた泉州Ⅱ南部編 高石市・和泉市～岬町」展示中:令和8年4月5日(日)まで
岸和田市立図書館 2階郷土コーナー【月曜日及び祝日・2/5(木)～2/13(金)・2/24(火)休館】